

精神保健医療福祉に関するエビデンスの提供と普及を目指した WEB ページの構築と運用

研究分担者：山口創生（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）

研究協力者：五十嵐百花、川口敬之（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）、
板垣貴志、佐々木奈都記（株式会社アクセライト）

要旨

本研究の目的は、国内の実践家が効果的な実践を行うための支援ツールとして、国内外の Evidence based practice (EBP) に関する情報を容易に入手することが可能な日本語プラットフォームの構築を行うことである。今年度は、Web サイトの構造および持続可能性を踏まえた運用方法の検討を行った。具体的には、閲覧者の属性や閲覧目的に応じて、コンテンツへの入り口を2つ配し、閲覧者が求める情報にたどり着きやすいシンプルな構造を設計した。この成果物として、Web サイト「こころとくらし」

(<https://cocokura.ncnp.go.jp/>) を開発し、令和3年7月に公開した。

サイトの持続可能性を踏まえた運用にあたり、コンテンツの追加作業が必要とされたが、作業の頻度を半年に1回としたことで、無理なく実施可能であった。また、無料のアクセス解析ツールを用いた運用は、サイトの利便性の向上だけでなく、コスト面においても有効であった。さらに、サイト制作を担当する研究協力者との連携体制は、多数のコンテンツを有するサイト運用や、サイトの利活用に関する新たな戦略の推進のために必要不可欠であった。加えて、サイトの安全な運用のために、先行する情報プラットフォームを参考に、リンク・著作物使用手続きに関するページを作成した。

本研究により見出された工夫点は、他分野における情報プラットフォーム構築を目指す今後の研究に貢献する基礎情報となり得る。今後も閲覧状況に応じたコンテンツの追加を行うなどして、広く利用されるように、サイトのアップデートおよび運用を行っていく。

A. 研究の背景と目的

本研究の目的は国内の実践家が効果的な実践を選択するためのツールとして、また当事者や家族が自身に関連する支援技法を主体的に検討する助けとして、国内外の Evidence based practice (EBP) に関する情報が容易に入手可能な日本語プラットフォームの構築を行うことである。令和元年度は Web サイトの基礎設計や主軸となるコンテンツを検討し方針を固めた。この方針に沿って、令和2年度では支援技法の紹

介ページおよびエビデンス等の説明ページの作成を行った。本稿では、令和3年7月に Web サイト「こころとくらし-精神障害当事者の地域生活にかかわる研究結果紹介サイト-Evidence based Information site on community lives for people with mental illness (略称：こころら)」

(<https://cocokura.ncnp.go.jp/>) を公開するにあたり、サイト構造および持続可能性を踏まえた運用方法の検討を行ったため報告する。

なお、本分担研究班は藤井分担研究班と
合同で作業を進めた。サイトコンテンツの
作成と掲載、およびサイト閲覧者の反響に
ついては、同分担研究班の報告書も合わせ
て参照されたい。

B. 方法

1. サイト構造の検討

令和元年度に実施したグループインタビ
ューの結果を踏まえて、サイト構造を検討
した。インタビューテーマは「支援技法の
エビデンスに関する Web サイトがあると
したら、どのような形式での情報提示が望
ましいか」であり、精神障害の当事者、家
族、精神保健医療福祉に関わる実践家、行
政職員、研究者の計 35 名が参加した。こ
の結果、すべての属性から段階的な情報の
提示が有用であるとの意見が寄せられたた
め、閲覧者の属性や目的に応じた「段階的
な情報の提示」を、サイト構造の方針とし
た。なお、インタビュー結果を踏まえたサ
イトのコンテンツ作成方法に関する検討内
容は昨年度報告した。

サイト構造の検討および設計は、精神保
健領域の研究者 4 名で実施した。経験年数
の内訳は 1 年 1 名、9 年 1 名、15 年以上 2
名であった。

2. 運用方法の検討

持続可能性を踏まえたサイトの運用方法
として、①コンテンツの追加作業の検討、
②サイト制作を担当する研究協力者との連
携、③リンク・著作物使用手続きに関する
ページの追加の 3 点が必要であると申し合
わされた。

①コンテンツの追加作業の検討

サイトのコンテンツについては、昨年度
のうちに、Cochrane review の PLS 和訳
作業および支援技法説明ページ作成に関す
る検討がなされ、具体的方法について報告
した。令和 3 年度は、サイト公開後に永続

的に行うコンテンツ追加作業の実施方法に
ついて検討を行った。

②研究協力者との連携

サイトの利便性の向上や信頼性の高い情
報発信のために、サイトの閲覧状況の把握
と分析を行うことが必要とされた。これに
ついて、サイト制作を担当する研究協力者
に対し、協力・連携を依頼した。

③リンク・著作物使用手続きに関するペ ージの追加

閲覧者の利用目的が多様であることが想
定されたため、サイトの安全な運用のため
に、リンクや著作物使用に関するルールを
提示する必要がある。これに対し、先行
する情報プラットフォーム「eJIM」の運
営者である大野智教授（島根大学）に協力
を依頼した。

C. 結果／進捗

1. サイト構造の検討

サイト構造の方針を踏まえて、サイト構
造を設計した（資料 1）。サイトのトップ
ページには実践家向けの入り口と、当事
者・家族向けの入り口を配し、閲覧者が求
める情報にたどり着きやすいシンプルな構
造を軸として設計した（資料 2）。具体的
に、「支援技法から探す」は調べたい支援
技法の名前がすでに分かっている閲覧者向
けの入り口であり、主に専門家の利用が想
定されている。クリックすると、支援技法
の名称が記されたボタンがあいいうえお順に
並んでおり、目的の支援技法のページに移
動することができる（資料 3）。「疑問や関
心事から探す」は、主に当事者や家族向け
の入り口であり、提示されている疑問や関
心事のボタン一覧から、関連する支援技法
のページに移動できる（資料 4）。

その他に、「エビデンスに関する Q&A」
「お知らせ」「この Web サイトについて」
「用語集」「アンケート」「お問い合わせ」
といったページを構成することとした（資

料1、資料2)。また、情報プラットフォームとしての機能を拡張し、他の関連サイトへのアクセスの利便性を高めるために、リンクのためのバナーをトップページ下部に配置した（資料1）。

2. 運用方法の検討

①コンテンツの追加作業

持続可能なコンテンツの追加作業のために、半年に1回程度コクランライブラリーの再検索を行い、収集された新たなコクランレビューに基づいて追加の掲載を行うこととした。

選定したコクランレビューをそれぞれ1人が担当し、支援技法そのもののわかりやすい説明文、コクランレビューの内容の解説、支援技法のイラスト案を含むページ原稿を作成した。これを週1回程度の会議にかけ、3～4人で意見を出し合い修正を行った。イラストは著作権の観点から、オリジナルのイラストを作成した。イラスト案はイラスト作成担当者に伝えられ、下描きと清書の段階で2回チェックと修正を行った。令和4年5月現在、サイトには34の支援技法、および2つの疑問に関するコンテンツが掲載されている。

将来的には、科学的根拠が示された支援技法だけでなく、より実践家になじみのある支援技法の掲載を行うことも申し合わされた。

②研究協力者との連携

サイトが広く利活用されるように、分担研究班でサイトの閲覧状況の把握と分析および解釈を行う必要があった。これに対し、サイト制作を担当する研究協力者より紹介された無料のアクセス解析ツール

「Google Analytics」を用いることとした。これによって、分担研究班のメンバーが定期的に関覧状況を確認でき、日毎のアクセス回数の推移や、閲覧者がサイトにど

のようにアクセスしたのかについて把握可能になった。

また、サイト制作担当の研究協力者によるアクセス解析を踏まえた専門的視点による助言がなされた。閲覧時間や、閲覧があった都道府県、アクセスが多いページに関する解析結果が示された。この結果より、アクセスは主に支援技法のページに集中していることから、研究者や実践家によるアクセスが多い可能性が推測された。なお、アクセス解析の詳細およびアンケートの回答結果は藤井分担班報告書を参照されたい。

③リンク・著作物使用手続きに関するページの追加

協力を依頼した「eJIM」の運営者である大野智教授の助言を踏まえて、リンク・著作物使用手続きに関するページを作成した。分担研究班内では、「eJIM」で提示しているページを参考に、「リンクについて」「著作物使用（引用・印刷・複製・転載）について」「著作物使用申込手続きについて」「免責事項」の項目を設定し、「お問い合わせ」ページよりリンクするようにサイトのアップデートを行った。

D. 考察

精神保健福祉に関するエビデンス情報発信を目的としたサイトの公開にあたり、閲覧しやすいサイト構造を設計し、信頼性の高い情報発信のための持続可能な運用方法を検討した。また、サイトの利便性の向上や安全面を踏まえたサイトのアップデートを行った。

サイト構造については、日常的に研究との接点や専門用語の知識がそれほど多くない人にいかにわかりやすく情報を伝えるかかということに工夫が必要であった。サイトにおけるアンケートページに基づく結果より、「探しやすい」と概ね好意的な評価を得た（藤井分担班報告書参照）。インタ

ビュー調査を踏まえた方針に基づき、閲覧者の属性や閲覧目的に応じた入り口を配したサイト構造の設計を行ったことが奏功したと考える。

サイトが広く利活用されるためには、永続的なコンテンツの追加作業に対応することが必要である。研究業務に従事する研究員にとって無理がなく、持続可能な運用方法が求められたが、コンテンツの追加作業の頻度を半年に1回としたことで、実施可能であった。また、無料のアクセス解析ツールに基づく運用は、コスト面において有効であった。さらに、研究員はサイト運用の専門家でないため、30を超えるコンテンツを有するサイト運用や、サイトの利活用に関する新たな戦略の推進のために、サイト制作担当の研究協力者との連携体制は不可欠であった。リンク・著作物使用手続きに関するページ作成を含め、本研究により見出された工夫点は、他分野における情報プラットフォーム構築を目指す今後の研究に貢献する基礎情報となり得る。

分担研究班では、今後も閲覧状況に応じたコンテンツの追加を行うなどして、広く利用されるように、サイトのアップデートおよび運用を行っていく。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

・佐藤さやか・五十嵐百花・川口敬之・藤本悠・田村早織・小川亮・佐々木奈都記・板垣貴志・山口創生・藤井千代：精神障害当事者の地域生活にかかわるエビデンス紹介サイトの開発とその意義．臨床精神医学（印刷中）．

2. 学会発表

・佐藤さやか：精神障害当事者の地域生活にかかわるエビデンス紹介サイトの開発とその意義．第46回NCNP精神保健研究所ランチョンセミナー，NCNP精神保健研究所，2022.1.17.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

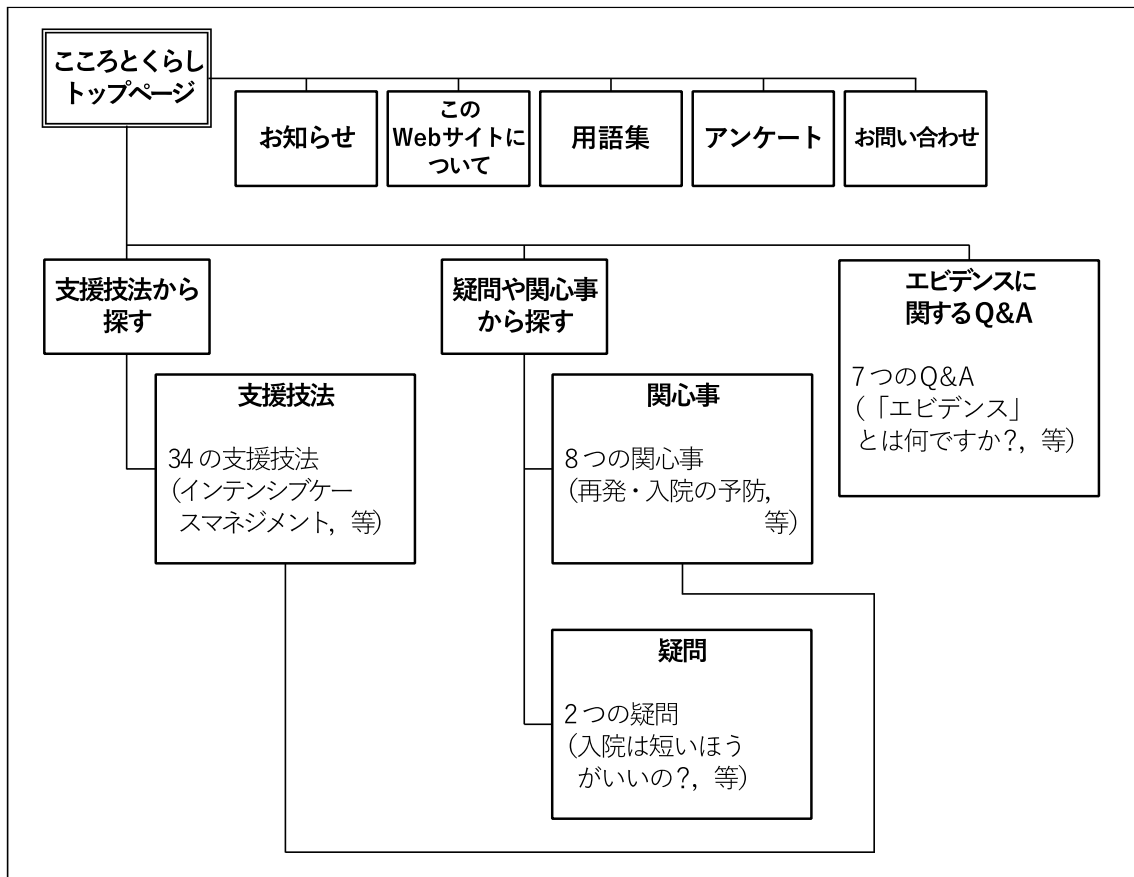
なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし



資料1 サイト構造



- ・このWebサイトについて
- ・用語集
- ・アンケート
- ・問い合わせ

- ・支援技法から探す
- ・疑問や関心事から探す
- ・エビデンスに関するQ&A

お知らせ

関連サイトにアクセスするためのバナー

資料2 トップページの構成

HOME > このWebサイトについて > 用語集 > アンケート > お問い合わせ

支援技法 から探す

疑問や関心事から探す

支援技法から探す

あ

- インテンシブケースマネジメント
- 運動療法
- 援助付き雇用/個別就労支援プログラム
- お金を用いた行動変更の促し

か

- 家族心理教育
- 危機介入
- 気どらし法
- 共同意思決定
- 口腔衛生教育
- コミュニティメンタルヘルsteam
- コラボレーティブケア（協働的ケア）
- コンプライアンスセラピー

さ

- 再発の注意サインへの対処
- 支援付き住居
- 支持療法
- 自分に関する情報の保有
- 社会生活技能訓練（SST）
- 情報通信技術（ICT）を用いた患者教育
- 情報通信技術（ICT）を活用した治療継続支援
- 食生活のアドバイス
- 身体の健康に関するアドバイス
- 心的外傷後ストレス障害（PTSD）に対する心理療法
- 心理教育
- 生活技能（ライフスキル）のトレーニング
- 精神科デイケア
- 精神科事前指示
- 早期介入

た

- 体重コントロールのための支援
- デイホスピタル
- 治療ガイドラインの導入

な

- 認知行動療法

は

- バーチャルリアリティ（VR）を用いた治療継続支援
- ピアサポート

ま

- 問題解決療法

や

ら

わ

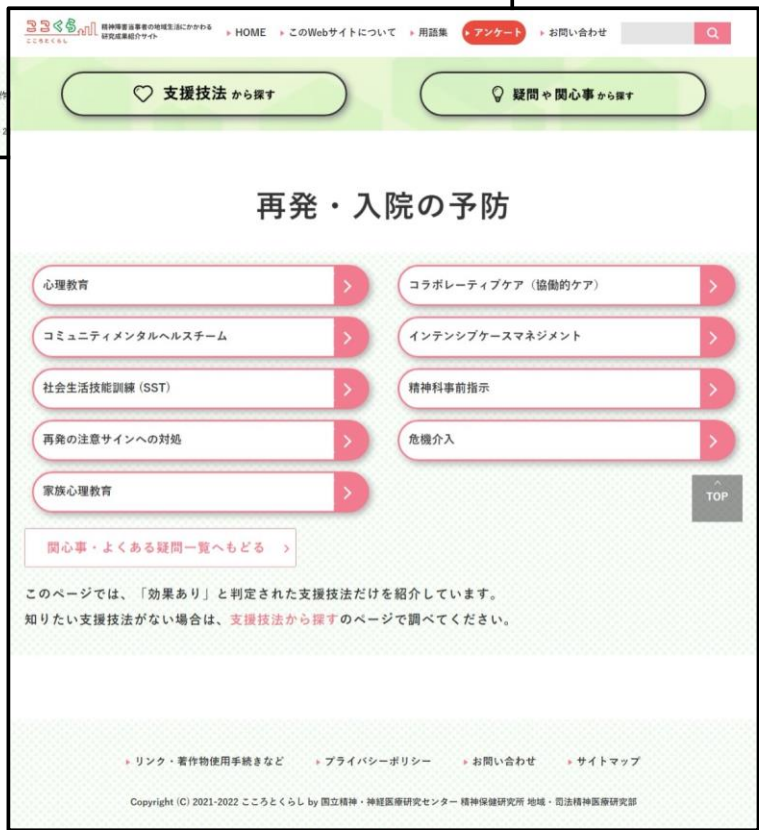
・リンク・著作物使用手続きなど ・プライバシーポリシー ・お問い合わせ ・サイトマップ

Copyright (C) 2021-2022 こころとくらし by 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部

資料3 「支援技法から探す」ページ



提示されている疑問や関心事のボタン一覧から、関連する支援技法のページに遷移



資料 4 「疑問や関心事から探す」ページおよび関心事ページ例

HOME > このWebサイトについて > 用語集 > **リンク** > お問い合わせ

支援技法から探す 疑問や関心事から探す

リンク・著作物使用手続きなど


ここでは、本サイトにおける著作権についてお知りになりたい方、コンテンツの二次利用を希望される方へのご案内をさせていただきます。このサイトのコンテンツを使用される場合の注意点は以下のとおりです。

リンクについて


- 「こころとくらし」へのリンクに際して、許可願いなど、事前連絡の必要はありません。ただしリンクを張った場合は、リンクの目的およびリンク元サイトのURLについて、事後にご一報ください。
- リンクを張る場合は、「こころとくらし」と明記してください。
- URLは、短縮などの加工をしないでください。
- コンテンツの更新などにより予告なくページの移動・削除などを行うことがあります。トップページ (https://cocokura.ncnp.go.jp/) 以外のページにリンクを張る場合にはご注意ください。
- リンク元サイトが、「こころとくらし」の内容について誤解を与えたり、サイト運営者の信用を害したりする恐れがあると判断された場合、リンク設定の修正または解除を要請することがあります。

以下の画像をバナーとしてお使いください。

300 × 70px



180 × 60px



著作物使用（引用・印刷・複製・転載）について

当サイトの内容は、次の条件のすべてを満たす場合には、自由に引用・印刷・複製・転載していただくことができます。

- 内容の変更を行わない。
- 販売のための宣伝・広告など営利目的で利用しない。
- 出典が「こころとくらし」にある旨を明記する。

(例)

- 学術論文等に引用する
- 無料かつ学術目的の研修会などで資料として用いる
- 大学の講義などで資料として用いる

上記の条件以外で利用される場合には、事前に著作物の使用手続きが必要で著作物使用申込手続きについてをご覧ください。

上記は、「こころとくらし」に関するものであり、当ホームページにリンクされません。「こころとくらし」からリンクされた外部のコンテンツについては利用のポリシーに従ってご利用ください。

リンクについて

著作物使用（引用・印刷・複製・転載）について

著作物使用申込手続きについて

著作物使用申込手続きについて

上記以外の条件で当サイトの本文または図表・イラストなどを利用する場合（例：書籍など有償の出版物や、有償のWebサイトでの引用・転載）、著作物使用手続きが必要となります。下記著作物使用申込書にご記入の上、以下の要領にて申し込んでください。

なお、引用・転載に関して、「こころとくらし」の内容について誤解を与えうる、編集方針に沿っていない、当該事業の目的に照らして適切でない内容を含む、あるいは正当の利用の範囲を超えると判断された場合には許可しないことがあります。また、手続きには内容によって時間がかかることがあります。期限を設定した申し込みには原則として対応いたしかねますのでお早めにご手続きください。よろしくお願いいたします。

【著作物使用申込手続きにおける留意事項】

申込者が独自に作成した図表や文章について、サイト運営者は原則として正誤の判断や修正を行いません。申込者の責任でお使いください。

【著作物使用申込書の記載要項】

申込書には以下の内容を記入してください。記載の不備や不足がある場合、手続きができないことがあります。

- 担当者氏名、会社名・施設名など
- 使用を希望する著作物（掲載URL、媒体名など具体的に）、画像・写真・図表などのタイトル名
- 著作物使用箇所（掲載箇所について、掲載案など具体的に成果物がわかる資料を添付してください。別ファイルでも可。）
- 使用目的（利用方法、予定している媒体の種類や公開方法など、できるだけ詳しくお書きください。）

【著作物使用申込手続きの流れ】

- 著作物使用申込書を下記よりダウンロードし、必要事項を記入したWordファイルをご作成ください。
- 著作物使用申込書を下記連絡先にメールにてご提出ください。
- 申込書の内容、使用目的、クレジットなどを確認します。内容によって2週間以上かかることがあります。
- 著作物の使用可否について、回答します。
- ご利用についての成果物を後日お送りいたしたく、ご協力をお願いします。

【著作物使用申込書】

こちらからダウンロードしてください。

[著作物使用申込書 \(Word\)](#) [docx](#)

申込書の記入例がダウンロードできます。

[著作物使用申込書 記入例 \(Word\)](#) [docx](#)

<連絡先>

著作物使用申込書の提出、ご質問などについては下記までご連絡ください。

(電話でのご質問は受け付けておりません)

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部 「こころとくらし」 運営事務局
cocokura@ncnp.go.jp

免責事項

本サイトの情報は、いわゆるマニュアルを指したものではありません。また、個別のご相談への対応や、医療機関の紹介は致しかねます。

「こころとくらし」運営者は、本サイト掲載の情報について、正確性を保つために万全の策を講じていますが、利用者が本サイトの情報を用いて行うことにより、何らかの不利益を被ることがあったとしても、一切の責任を負うものではありません。

当サイトは、予告なしに内容を変更または削除する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

更新日：2022年1月11日
公開日：2022年1月11日

リンク・著作物使用手続きなど プライバシーポリシー お問い合わせ サイトマップ

Copyright (C) 2021, 2022 こころとくらし by 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部

資料5 リンク・著作物使用手続きに関するページ